

リビン・テクノロジーズ調べ

不動産関連の比較査定サイト「スマイスター」を運営するリビン・テクノロジーズ（東京都中央区、川合大無社長）は6月26日、「不動産売買時に必要な用語」に関する認知度調査を実施した。

同サイトを利用する20歳以上の男女150人を対象に調べたところ、内容まで知っている用語の認知度トップ3を

「存在感なし」インスペ、レイズ

見ると、1位は「買い取り」（37・3%）、2位が「市街化区域・市街化調整区域」（27・3%）、3位が「元金均等・元利均等」（23・3%）となり、「区分所有」（22・7%）と「リノベーション」（22・0%）が続いた。

一方、認知度が低いワースト3は、「インスペクション」（85・3%）、「レイズ」

不動産取引用語の一般認知度

（82・0%）、「スケルトン・インフィル」（81・3%）だった。4位は「危険負担」（72・0%）、5位が「リースバック」（71・3%）だった。

認知度1位の「買い取り」であっても内容まで知っている人は37・3%にとどまった。今回のアンケートで尋ねた24用語のうち6用語については、内容まで知っている人は1割にも満たなかった。